

いよいよ3年生。体育大会、修学旅行、けやき祭が終わると高校受験は目前。
今できることをやっておこう！ 図書館は全力で応援します！

2026年都立高校入試
共通問題【物語】はこれだ！

「長すぎた幕間」^{まくあい}

「劇場という名の星座」小川洋子/著 集英社 から

前年度の物語文は『アオナギの巣立つ森では』にしがきようこ/著 小峰書店 でした。
三鷹市の学校ではどこも所蔵しておらず、あわてて購入した記憶があります。
今年度は小川洋子さんの「長すぎた幕間」という作品でしたが、小川さんの作品には
映画化もされた『博士の愛した数式』があり、他の作品を読んだことがある人もいたのでは？
緊張する入試という場で知っている作家の作品が出るなんてラッキーですよ～。
普段から本を読んでおいた人へのごほうびですね。入試対策としても役立つ「読書」なのだ！

**教科書に掲載されている本って読んだことある？ 「広がる読書」「読書案内」と
たくさん紹介されています。読んでおいて損はない、そんな作品の数々。**

「誰も知らない世界のことわざ」エラ・フランシス・サンダース/著 創元社
このシリーズ（六中所蔵2冊）では「外国語」が地球上にたくさんあることに
気づくでしょう。歴史や文化に根ざすことわざの世界に驚かされるはずです。

「戸村飯店 青春100連発」瀬尾まいこ/著 文藝春秋
ヘイスケとコウスケの兄弟は大阪の町の中華料理店の息子たち。見た目も性格も
違う兄弟がくりひろげる物語はとにかく面白い！大阪弁のセリフや兄弟のちょっと
ズレた行動に爆笑です。瀬尾まいこさんの作品はいつもまなざしが優しいのだ。

「天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い」中村哲/著 NHK 出版
2000年からアフガニスタンで用水路の建設に携わり、2019年に銃撃され
命を落とした中村哲さん。現地から世界情勢を考え、人々の命と生活を支援する
行動力は、現代の私たちが見習うべき姿ではないでしょうか。

「だんまり、つぶやき、語らい じぶんをひらくことば」鷲田清一/著 講談社
大学の先生が高校生に向けて語った講演の記録。堅苦しいお話ではありません。
テーマは、ことばを「だんまり、つぶやき、語らい」の3段階で考えてみるというもの。
人と話すってしんどくないですか？ 黙っていてもしゃべりすぎても浮く…。
語らいのステージを上げるためにはどんな人と話せばいいか、知りたい人は読んでごらん。